

# 令和4年度 文京区立指ヶ谷小学校 学校経営方針

## 具体的方策 1

### 「質の高い学級集団」

- ①「どの子どもにとっても居心地のよい空間」「どの子どもも疎外されない空間」を作ることを全校目標として、学びを保證できる環境作りに努力します。そのために、違いを認めたり、互いのよさを認め合えたりする人間関係を築いていきます。
- ②昨年度までの人権尊重教育推進校の研究成果を生かし、人権意識を高め、自他ともに大切にできる児童を育てます。
- ③いじめ「ゼロ」を達成することに努めます。Q-Uテストを実施し、学級集団の把握と、いじめの早期発見に生かします。
- ④制限のある中でも「今できる精一杯」を合言葉に学校行事等に取り組み、各教科・領域で、協力し認め合う心を育てます。
- ⑤これまで取り組んできた、オリンピック・パラリンピック教育やSDGsの視点を生かし、国際社会を見据えた教育を推進します。
- ⑥教職員が同一の指導方針を共有し、指導に当たります。

## 教育目標

よい社会を形成する人間をめざして 心豊かで 輝く個性をもつ 子供を育てる

- ◎考える子……………自分でしっかり考えて、表現できる子を育てる（今年度の重点目標）
- 実行する子……………目標を決めて、最後まであきらめずに取り組む子を育てる
- じょうぶな子……………何事にも意欲がもてる、心身ともに健康な子を育てる
- 思いやりのある子……………自分も他人も大切に考え、人としてのやさしさをもった子を育てる



## 目指す学校像 「とも(共・友)に学び お互いを大切にする関わりを築く学校」

本校の教育目標を達成するために、コミュニケーション能力を高め、よりよい人間関係を築くことができる教育を目指します。児童が様々な人と出会い、関わり方を学ぶことで人間関係力の向上を図る教育ができるよう努力します。

### 具体的な学校像

1. 児童が自分らしく活動できる学校
2. 教職員が一人一人の児童のよさを認め、伸ばす学校
3. 保護者・地域が安心感と期待感を抱く学校

### \*目指す学校像を実現させるための基本方針\*

1. 児童が「自分らしく」あるために  
一人一人が違いを認めた上で、お互いの存在を認め合える環境を整えます。この環境とは、教師の言動・行動に始まり、児童が充足感をもって過ごせるよう配慮し、自分の思いを安心して表明できる場を整えることと考えます。
2. 「児童のよさを認め、伸ばす」ために  
一人一人の児童をよく見つめ、寄り添い、児童のありのままの様子を共感的に理解します。また、児童に親切な教師を目指し、「わからないこと」「困っていること」を適切に支援します。
3. 「保護者や地域が安心感や期待を抱く」ために  
児童の成長を実感させること、連携を重視し、理解し合い、協力し合う体制を整えます。

## 具体的方策 2

### 「授業の充実」

- ①児童理解力を深め、全児童が各々の能力を発揮できる授業のため、OJTを組織的に行い、授業交流を通して教師の授業力を高めます。
- ②児童の実態に基づいた課題を明確化した「授業改善推進プラン」を作成し、活用・改善を繰り返し、授業力と学力向上を目指します。
- ③「自分で考える時間」と「みんなで交流して考える時間」を取り入れた授業を工夫することで、コミュニケーション能力の育成を図っていきます。
- ④児童一人一人に合った学び方とみんなで学ぶ学び方を往復して学びを深め、算数少人数指導や朝学習における漢字・計算・読書等で基礎学力の定着を図ります。
- ⑤文京区教育研究協力校として、1人1台端末を教育的効果を考え最大限に活用した授業改善を推進します。

## 具体的方策 3

### 「教職員が率先垂範」

- ①教師として信用にたる行動を肝に銘じ、服務事故「0(ゼロ)」を保ちます。
- ②教職員が目標を共有し、互いを尊重し、認め合い、理解と信頼をもとに行動する組織を作ります。
- ③職層に応じた意識を高め、協働を目指した組織を目指します。
  - 1)「いつまでに」「だれが」「なにを」するのかを明確化、見通しがもてる教育計画を整えます。
  - 2)本校に必要な分掌を整理し、効率化します。
  - 3)起案システムをさらに明確化し、会議の時間を短縮します。

## 具体的方策 4

### 「命と安全を守り健やかに育成する」

- ①新型コロナウイルス感染防止を徹底します。区のガイドラインにしたがい、常に見直しを行い、「より安心・安全」な学校にします。
- ②児童の人権を守ります。体罰や不適切な指導を否定します。正しく、丁寧に肯定的な言動で親切・思いやりを及ぼす教員として努力します。
- ③防災対策、施設の安全施設を徹底し、危険箇所をなくします。児童自身が自分の安全を守る力を高めます。
- ④指導上の情報交換を進め、適切な共通理解・指導を行い、保護者に適切な助言・説明を行うよう努めます。
- ⑤特別支援教育は、校内の組織での対応を充実させ、支援体制を構築していきます。

## 具体的方策 5

### 「保護者・地域との連携を深める」

- ①保護者・地域に対する接遇(笑顔・挨拶・言葉づかい)に努めます。
- ②保護者の声に真摯に耳を傾けます。途中経過を定期的に報告する等連絡を密にし、信頼を得られるよう努力します。
- ③保護者からの徴収金を使って教育活動を行う場合は、教育効果を十分に達成できるよう検討します。
- ④学校ホームページ、お便り、児童作品の掲示等の随時更新を行い、学校の取組にご理解とご協力が得られるように努めます。
- ⑤学校運営連絡協議会兼学校関係者評価委員会を年3回開催します。学校評価アンケートを行い、考えや期待を受け止め、感染状況に応じて、開かれた学校づくりに努めます。また、地域支援本部を起ち上げます。
- ⑥地域の教育力を取り入れ、地域に根差した教育を推進します。同時に児童・教職員にPTAや地域の様々な行事等に参加を促し、連携を一層深める努力をするとともに地域愛・郷土愛を育みます。